

国際研修第11回「紙の保存と修復」(⑤修05-08-3/5)

目 的

海外で所蔵されている絵画や書跡、冊子などの紙文化財は、日本と違った気象条件で長期間保存されてきたために、損傷を持った作品が多い。また、担当者の不慣れな取り扱いによって作品を破損する場合もある。日本美術品の保存・修復・活用を行うには、材料・技法などの基礎的な理解と基本的な取扱いや修復に関する実技研修が必要であるが、海外でそのような機会を得ることは困難である。本研修は、紙文化財に関する保存修復の講義および演習を通して、研修参加者に、紙文化財に関わる基礎知識を伝えるものである。

概 要

研修日程 2008(平成20)年9月8日(月)～9月26日(金)

研修場所 東京文化財研究所

研修対象 紙文化財の保存と修復を担当する学芸員、修復技術者、科学者および保存担当者

研修参加者(10名)

モニー・チュオン(カンボジア国立図書館 カンボジア)

マリア・ルイーザ ジョルジ(国立東洋美術館 イタリア)

ヤン・ヒブナー(プラハ芸術・建築・デザイン大学 チェコ)

マリー・フランス・ルメイ(イエール大学図書館附属ベインニック貴重図書・写本図書館 米国)

イングリッド・セゲヴァース(ラ・カンブル国立美術学校 ベルギー)

コレア・サラス・マリア・ソレダード(国立保存修復センター チリ)

カロライン・デ・ステファニ(大英図書館 英国)

シャン・ワン(中国文化遺産研究院 中国)

ヨハンナ・マグダレーナ・ヴァイドリンガー(ヘルツォーク・アウグスト図書館 ドイツ)

ナイヤナ・ヤムサカ(タイ国立公文書館 タイ)

研修内容

(講 義)

9月8日:紙の基礎 加藤雅人(東京文化財研究所)

9月9日:文化財修復に用いられる接着剤について 川野邊渉(東京文化財研究所)

9月12日:絵画材料とその技法から東洋絵画の修復を考える～接着の方法について

山本記子((株)文化財保存)

9月24日:日本の紙文化財の保存と修復

池田寿(文化庁)

〈実 習〉9月9日～12日、22日、24日、25日:虫損直し～卷子装。和綴じ冊子作製。屏風、掛軸の取扱。

〈スタディーツアー〉9月16日～19日:岐阜県美濃市(長谷川和紙工房見学。美濃和紙の里会館、観覧および和紙の手漉き。美濃史料館観覧。美濃市美濃町伝統的建造物群保存地区見学)。京都市(京都国立博物館文化財修理所、国宝修理装飾師連盟工房見学および漉きばめ実習)。

〈ディスカッション〉9月26日:研修全体を通しての成果、疑問などについての討論。

報告書の刊行 1件

・『International Course on Conservation of Japanese Paper 2008』東京文化財研究所 155p 09.3

研究組織

○川野邊渉、北野信彦、加藤雅人、早川典子、坪倉早智子、山口依子(以上、保存修復科学センター)